日本学術会議心理学・教育学委員会
不登校現象と学校づくり分科会 2025・3・16
公開シンポジウム「不登校現象に関する研究の到達点」

社会福祉学における研究動向

野田正人（立命館大学）

社会福祉学

- 人が、その人らしさを発揮して、幸せな生活を送ることができるように、ミクロからマクロまでの様々な取り組みを行うことであり、特に人と環境との関係性に着目する点に特徴がある。
- ⇒　臨床的な応用学
- としたときに、「不登校」は、どのような問題があるのか。

- 文科省の不登校　長期欠席の一部であり

「不登校」には，何らかの心理的，情緒的，身体的，あるいは社会的要因・背景により，児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし，「病気」や「経済的理由」，「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く。）を計上。

R5　長期欠席 493,440人 不登校 346,482人

- 不登校の増加以前に ⇒ 不登校は長期欠席の一部
- 70.2%が不登校

	長期欠席	うち　不登校	
令和２	287,747	196,127	68.20%
令和３	413,750	244,940	59.20%
令和４	460,648	299,048	64.90%

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

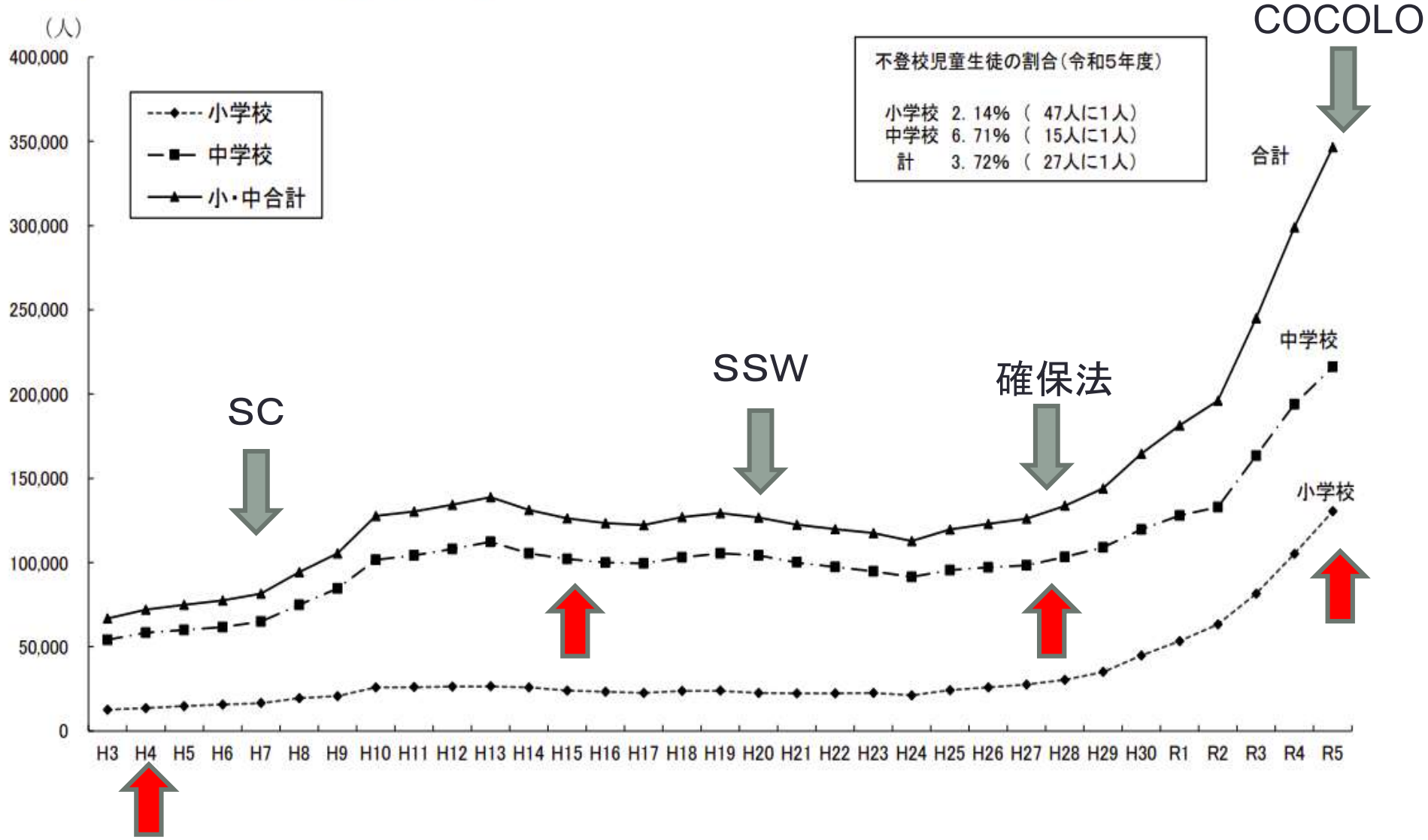
（小中　全国　自治体によって5割から7割）

特に平成24・25年ころからの急増と コロナ期の加速

R5年

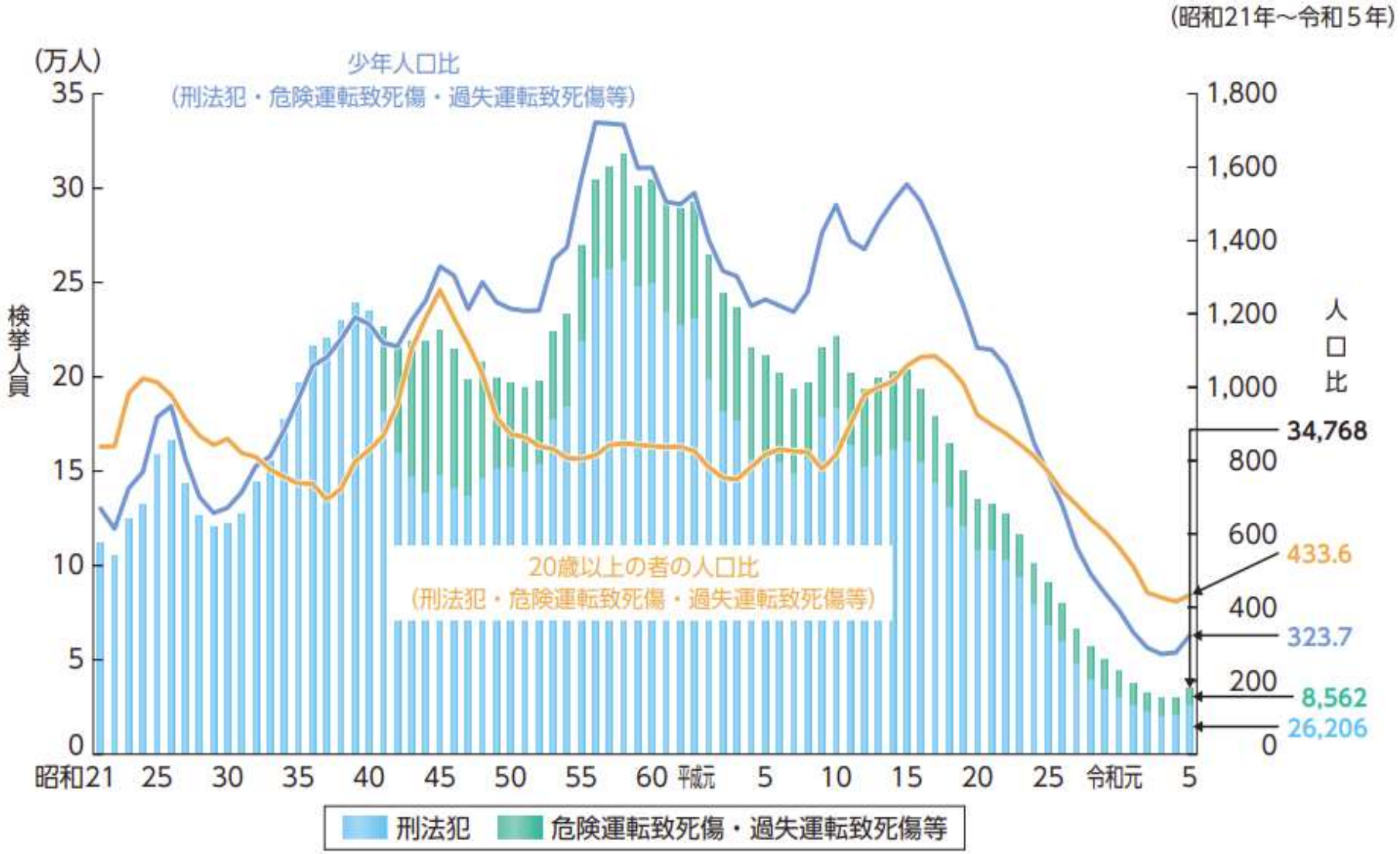
令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

＜参考2＞　不登校児童生徒数の推移グラフ



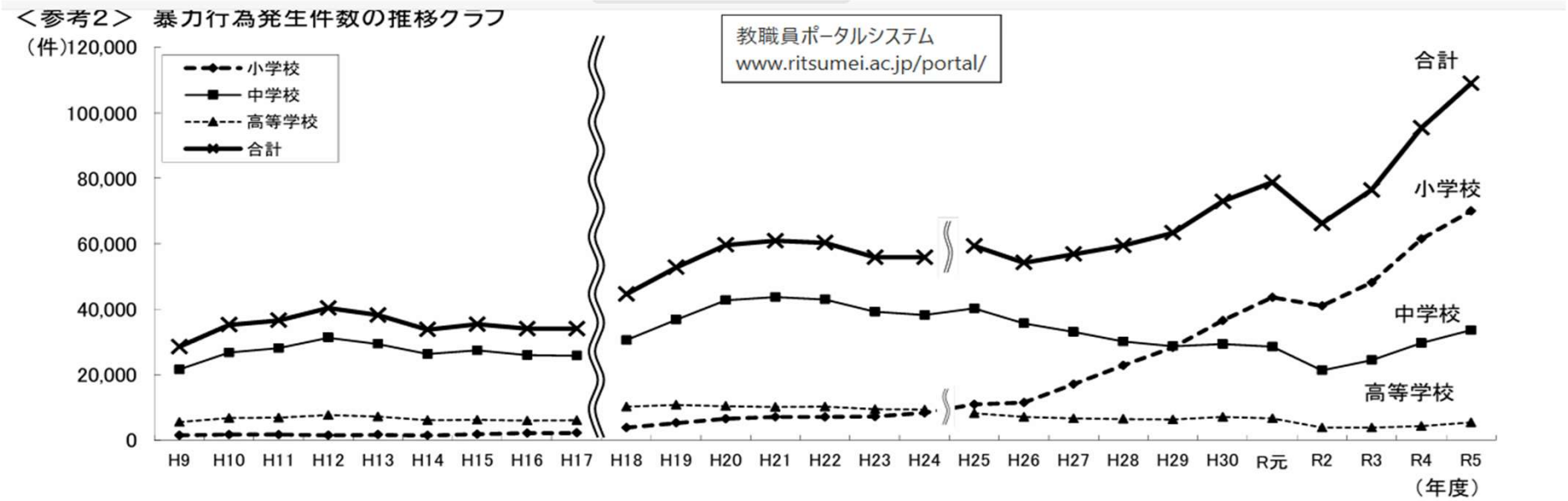
3-1-1-1図 少年による刑法犯等 検挙人員・人口比の推移

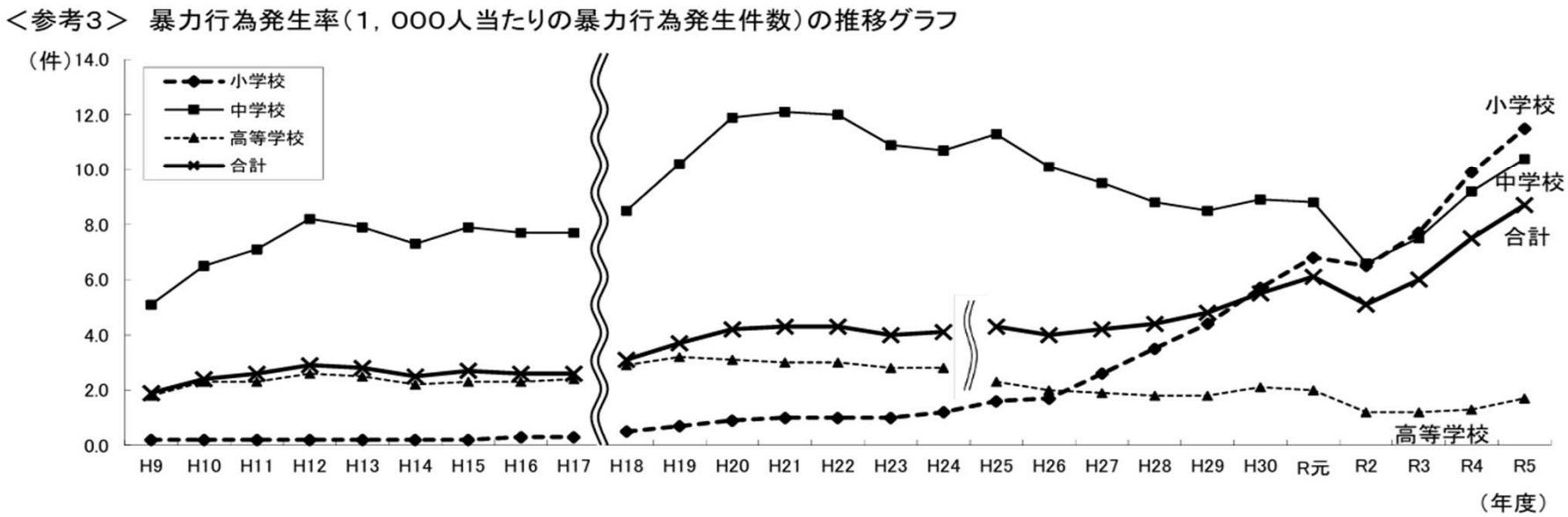
① 刑法犯・危険運転致死傷・過失運転致死傷等



校内暴力　R5年

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

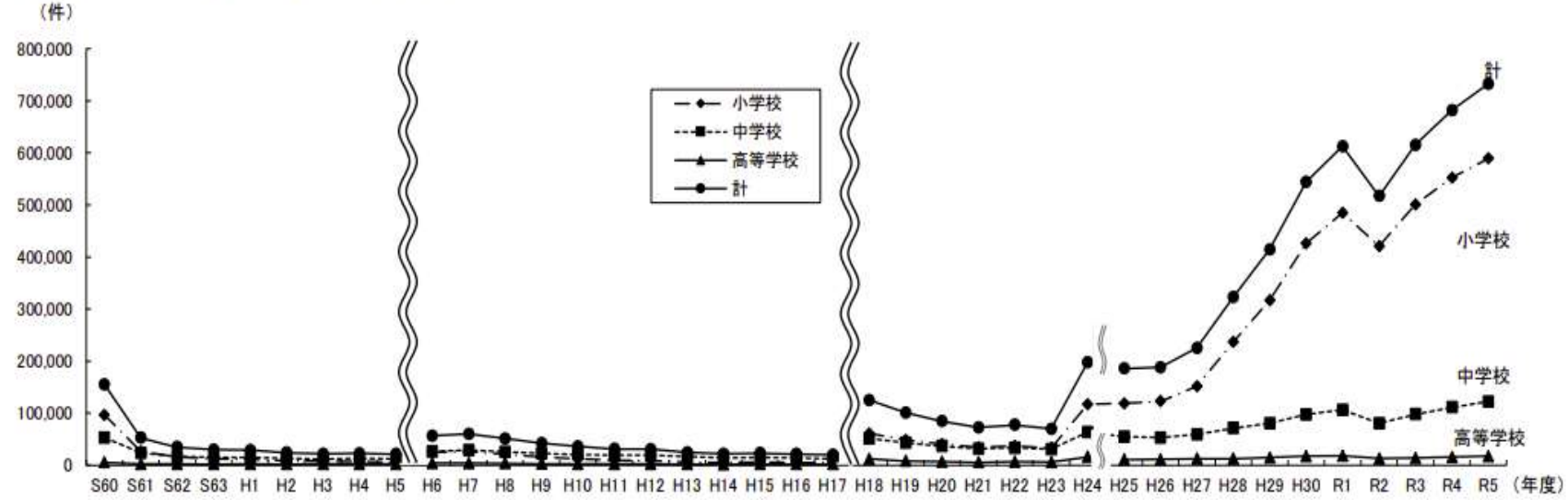




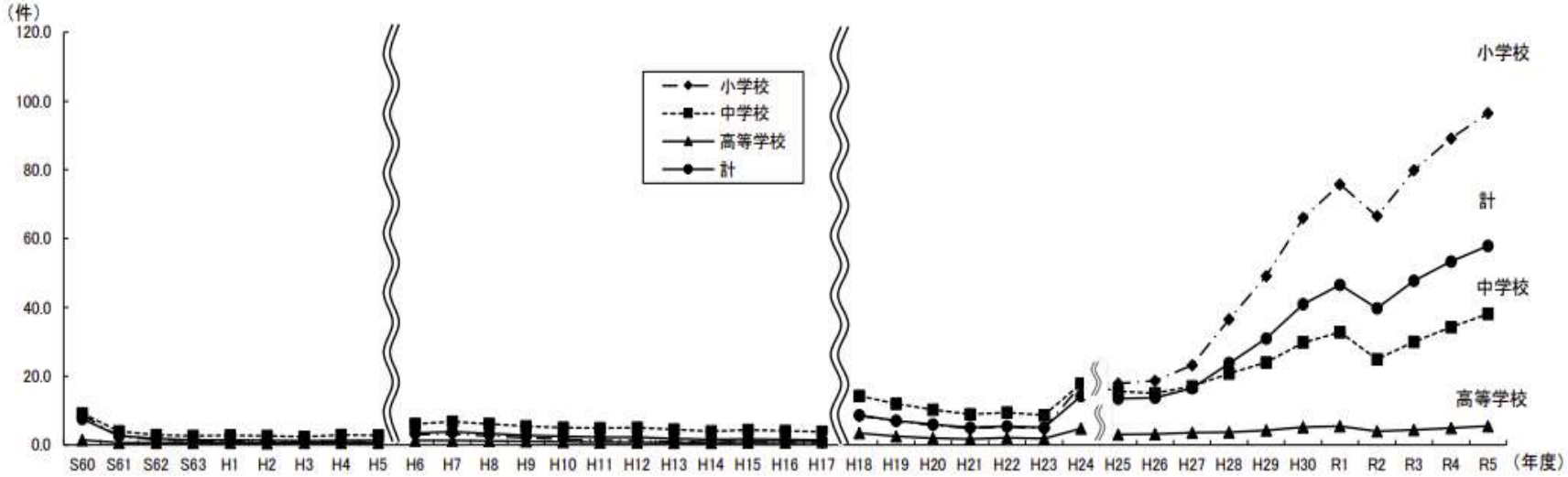
いじめ

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果

＜参考2＞ いじめの認知（発生）件数の推移グラフ



＜参考3＞ いじめの認知（発生）率の推移（1，000人当たりの認知件数）グラフ



不登校の影響としての課題と支援

- 低学歴と貧困の再生産
- 引きこもりなどの自立の課題
- 居場所として学校が活用できない　⇒　学校の福祉機能
- 犯罪などの予備軍の形成　⇒　つながりがない中、ネット介在
- 家族間葛藤の深刻化　　私塾への監禁と暴力

不登校の要因とその支援

- 要因の分析の困難さ
- 経時的に、より多様化、不鮮明化

- 本人の要因　障害、特に発達障害　低学力
- 友人関係　いじめ　競争
- 学校課題　教員の多忙と不足　学校・教師への不信
- 家庭要因　監護力　虐待　貧困　ヤングケアラー
- 社会的要因　不登校への寛容さ　機会確保法　ネット社会
- 教育行政　不登校対策の躊躇　オルタナティブな経路の開発

不登校の現状への支援

- 2008年　スクールソーシャルワーカー（SSW）の導入
  この分野のソーシャルワーカーの活動についての模索

  直接支援と　間接支援の活動
  子どもの代弁者か、チーム学校の職員か

  生物心理社会（BPS）モデルのすすめ
  各領域の知見を生かしたソーシャルワークを模索するも
  未だ実践交流レベルで、理論化は追いついていない。